

I-B1-4 超速効型インスリンによる糖代謝異常妊娠に対する  
血糖管理

三重大学産科婦人科

日下 秀人、杉山 隆、近藤 英司、前川 有香、  
岡川 英仁、豊田 長康

【目的】最近我が国においても超速効型インスリンを使用できるようになった。我々は本インスリンの糖代謝異常の認められる妊娠や産婦への投与に関する効果について検討した。【方法】妊娠前、妊娠中あるいは産褥期に糖代謝異常女性11名に対し従来のヒト速効型インスリンから超速効型インスリンに変更した。投与前と投与後において、1日の平均血糖値とHbA<sub>1c</sub>値の推移を比較検討し、また患者の本剤使用に関する感想をアンケート調査した。【成績】全11名中、9名において平均血糖値の低下とHbA<sub>1c</sub>の低下傾向を認めた。産褥期予後に差は認められなかった。網膜症の悪化した例はなかった。また食直前の測定および注入は全員がより快適であると答えた。【結論】超速効型インスリンは妊娠・産褥時にも安全かつ有効であるのみならず、患者のQOLを高める方法であると考えられる。